

平成 29 年度 春期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、プロジェクトに関わる様々なマネジメントの視点を持ち、マネジメント項目間のトレードオフや、プロジェクトの外部との依存関係を把握し、適切にマネジメントする必要がある。</p> <p>本問では、多くのステークホルダが存在するプロジェクトの計画策定において、スコープ、ステークホルダ、リスク、スケジュールなどのマネジメント項目間のトレードオフを把握し、プロジェクト計画を策定し、合意形成を行うといった、PM としての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ GMP の認証に要するスケジュールリスクを軽減できるから ・ GMP の認証が不要で、期間を短縮できるから 		
設問 2	現状の製造プロセスが MES で正しく運用できることを確認する必要があるから		
設問 3	(1)	T 社で調整できない要因でスコープが確定できないリスクを回避したいから	
	(2)	リソース	ワークショップへの K 社作業員の参加の程度
		スケジュール	増設工事が予定どおり 8 か月で終わるかどうか
設問 4	①	・ 生産計画最適化の基準について検討の方向性が決まっていないから	
	②	・ 分析するために必要な期間の履歴データが蓄積されていないから	

問 2

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、サプライヤにシステム開発を委託するに当たって、契約形態を意識した上で確実に契約が履行されるように、進捗管理・品質管理などの開発条件に関して、契約交渉を行う必要がある。また、プロジェクト開始後は、契約にのっとり適切にサプライヤをマネジメントする必要がある。</p> <p>本問では、請負契約での委託実績がないサプライヤに委託を試みるプロジェクトを題材として、調達における PM としての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	X 社の完成責任の負荷が軽減されること		
設問 2	新案件の制約条件	スケジュールに大きな手戻りを許す余裕がないこと	
	考慮すべき点	A 社の請負契約の遂行能力が把握できていないこと	
設問 3	(1)	静的解析ツールによって修正が必要とされた問題点への対処	
	(2)	A 社の瑕疵に対する修復	
	(3)	直接に依頼をできるのは、B 主任に対してだけであること	
設問 4	(1)	A 社が担当した機能のレビューでは、適切な量と内容の欠陥が摘出されていたこと	
	(2)	合意したプロセスにのっとりるようにマネジメントされていないこと	

問3

出題趣旨	
<p>プロジェクトマネージャ（PM）は、テストを通じてソフトウェアの品質を確認するとともに、摘出したバグの分析を通じて摘出状況の妥当性を確認したり、バグが発生した原因を作業及び成果物から推定したりして、成果物の品質を向上するための対策を採る必要がある。</p> <p>本問では、システムの改修案件の単体テストを題材に、単体テストの見直し及びテスト後の作業及び成果物分析を通じた成果物の品質向上策の立案について、PMとしての実践的な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考	
設問1	(1)	内部設計後に発見した設計内容の誤りを修正した内部設計書を利用して手戻りを減らすため		
	(2)	後続のテストが実行できないバグ		
設問2	(1)	手戻りが増え、テストの効率が下がるから		
	(2)	a	ホワイトボックス	
		b	ブラックボックス	
	(3)	分析対象	バグの見逃しと呼ぶ現象	
評価結果		過去の改修案件よりも減っている。		
設問3	(1)	単位ステップ数当たりのテストケースの追加量		
	(2)	摘出バグ密度がバグ密度の管理目標の上限を超えているから		
設問4	外部設計書と内部設計書の対応関係の確認状況			